

外国語学部 日本語教員養成プログラム一覧表

区 分	授 業 科 目	単 位 数			配 当 年 次	備 考	
		必修	選択	単位			
(1)言語一般	日本語研究 (文法)		○	2	2・3・4	計 14 単位 以上 選択 必修	各 分 野 を 合 わ せ て 合 計 42 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と
	日本語研究 (音声・音韻)		○	2	2・3・4		
	日本語研究 (共通語と方言)		○	2	2・3・4		
	日本語研究 (文字・表記)		○	2	2・3・4		
	日本語研究 (語彙・意味)		○	2	2・3・4		
	日本語学概論Ⅰ		○	2	1・2・3・4		
	日本語学概論Ⅱ		○	2	1・2・3・4		
	日本語史		○	2	2・3・4		
	言語学概論		○	2	1・2・3・4		
	日英対照言語研究		○	2	1・2・3・4		
	日独対照言語研究		○	2	2・3・4		
	日西対照言語研究		○	2	2・3・4		
	日中対照言語研究		○	2	2・3・4		
日韓対照言語研究		○	2	2・3・4			
(2)言語と教育	日本語教授法Ⅰ	◎		2	1・2・3・4	10 単位 以上 必修	
	日本語教授法Ⅱ	◎		2	2・3・4		
	日本語教授法Ⅲ	◎		2	2・3・4		
	日本語教授法Ⅳ	◎		2	3・4		
	日本語教授法Ⅴ	◎		2	3・4		
	応用言語学Ⅰ		○	2	2・3・4		
	応用言語学Ⅱ		○	2	2・3・4		
	特別実習 (日本語教育)		○	2	2・3・4		
	視聴覚教育メディア論*		○	2	2・3・4		
(3)言語と心理	心理学Ⅰ		○	2	1・2・3・4	2 単位 以上 選 択	
	心理学Ⅱ		○	2	1・2・3・4		
	認知言語学Ⅰ		○	2	2・3・4		
	認知言語学Ⅱ		○	2	2・3・4		
	発達心理学*		○	2	1・2・3・4		
(4)言語と社会	日本語研究 (談話・言語生活)		○	2	2・3・4	2 単位 以上 選 択	
	異文化間コミュニケーション論		○	2	2・3・4		
	言語政策論		○	2	2・3・4		
	社会言語学Ⅰ		○	2	2・3・4		
	社会言語学Ⅱ		○	2	2・3・4		
	教育社会学*		○	2	2・3・4		
(5)社会・文化・地域	総合日本語Ⅰ (日本文化概論)		○	1	2・3・4	計 6 単位 以上 選 択 必 修	
	総合日本語Ⅱ (日本文学概論)		○	1	2・3・4		
	総合日本語Ⅲ (日本文学史)		○	1	2・3・4		
	総合日本語Ⅳ (日本思想史)		○	1	2・3・4		
	総合日本語Ⅴ (近現代日本文学)		○	1	2・3・4		
	総合日本語Ⅵ (日本古典文学)		○	1	2・3・4		
	比較文化研究AⅠ (英語圏)		○	2	1・2・3・4		
	比較文化研究AⅡ (英語圏)		○	2	1・2・3・4		
	比較文化研究BⅠ (英語圏)		○	2	1・2・3・4		
	比較文化研究BⅡ (英語圏)		○	2	1・2・3・4		
	比較文化研究 (ドイツ)		○	2	2・3・4		
	比較文化研究 (スペイン)		○	2	2・3・4		
	比較文化研究 (中国)		○	2	2・3・4		
	比較文化研究 (韓国)		○	2	2・3・4		
	日本文化論		○	2	2・3・4		

1. 日本語教員養成プログラムは、外国語としての日本語を教える教師を目指す人のためのプログラムである。
2. このプログラムは、外国語学科の学生が対象である。
3. 「日本語教授法Ⅰ～Ⅴ」は5科目10単位必修で、ⅠからⅤまで段階的に履修しなければならない。
特に「日本語教授法Ⅳ・Ⅴ」は教授法の総仕上げとして模擬実習を行うので、留学生の場合は日本語能力試験NIに合格していることが必要である。
4. 上記の各分野の科目を履修し、合計42単位以上を修得した者には、卒業時に日本語教員養成プログラム単位修得証明書を発行する。
5. 「特別実習 (日本語教育)」については、複数回の履修が可能である。

注1) 「(5)社会・文化・地域」の中に、法学部あるいは経済情報学部からの提供専門科目を4単位まで含めることができる。

注2) *印の科目は、教職科目として開講。(履修登録制限単位数には含めない)